

第53回全日本中学校国語教育研究協議会

子どもたちが自ら学び、深める授業づくりの実践と改善

善通寺市立西中学校 田中真佑美

1 全体会

①概要

【基調提案】

I 研究主題について

「言葉の力を学び、次代をひらく ～子どもたちが自ら学び、深める授業づくりの実践と改善～」これは、情勢の変化を前向きに受け止め、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を実現した授業のプロセスを通して身に付けた「言葉の力」（国語で育成を目指す資質・能力）を、生徒が持続可能な社会の創造に生かしていく姿を想定したものである。副題を「子どもたちが自ら学び、深める授業づくりの実践と改善」としたのは、生徒が主語となる授業づくりの在り方を具体的に提案しようとするものである。

II 研究の方法と内容

①生徒を主語にした授業づくり

「学びのプラン」を活用し、生徒自身が学習評価や授業の流れを理解して授業を進めていく指導と評価の一体化を目指す。

②主体的・対話的で深い学びの実現

「個の学び⇄集団での学び→（個の学びを深める）振り返り」という学習プロセスの中で、授業を通して理解したこと、考えたことを生徒自身が自分の言葉で説明できる機会を単元の中に意図的に作る。

③ 学びの系統性を意識した授業づくり

学年の指導事項を踏まえた系統的・段階的な学び

プロセス重視の学習指導案：「学びのプラン」を生徒が自分で用いることで、主体的・対話的で深い学びを実現する。指導案とは違い、生徒が主語で記述される。単元で「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるよ

生徒が理解できるよう、単元名、単元の目標（単元で身に付ける資質・能力）、評価基準と評価方法、言語活動等の内容が盛り込まれている。

【文部科学省講話】

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から中学生の国語学力における課題として、思考力・判断力・表現力の不足が挙げられた。その改善策として、目的意識を持った学習活動の導入や、多様な意見に触れる授業設計がある。さらに、個別の学習状況を把握し、適切な指導と評価を行うことで、生徒の主体性を引き出す方法については、「全国学力・学習状況調査 授業アイデア集」が参考にできる。単元で取り上げる指導事項を具体的に理解し、学習課題を創意工夫する。そして生徒が学習課題のよりよい解決に向けて、生徒が試行錯誤できる場面の設定を行い、生徒の学習の過程をどのように評価しどのような手立てを講じるか計画することに留意して授業づくりを行う必要がある。

②考察

基調提案を通じて考えさせられたのは、本当の意味での「主体的・対話的で深い学び」の実現とは何かということだ。特に「学びのプラン」を活用した授業プランでは単に知識を得るだけでなく、その過程を重視する。それは、生徒自身が思考・判断・表現する力を身につける上で非常に有効であると感じた。

今回研修では学習過程を生徒視点で可視化し、生徒自身が振り返る機会を設けることで学びをより深いものにできる、学びを生徒自

身が調整できると分かった。

プロセスを重視した授業指導案の作成は、子どもたちが「学ぶ過程」を深く理解するための重要な取り組みである。これにより、生徒は自ら学ぶことの楽しさを感じ、主体性を育むことができる。また、学びの過程を「見える化」することで、教師側も個々の生徒の理解度や課題を把握しやすくなる。

また、言語活動を通じて深い学びを実現するという視点は、生徒の論理的思考力や表現力を高める上で欠かせない要素だ。特に、現代社会では情報を正確に受け取り、他者に伝える能力が求められている。この研修での提案は、生徒が自ら言葉を選び、考えを練り上げる力を育む点で、これからの社会に必要な言葉の力を身につけられると考えた。

ユニット制による教師間の協働は、教育現場の課題解決において大きな可能性がある。個々の教師が抱える負担を軽減しつつ、他者の視点を取り入れることで、より多角的な授業改善が期待できる。

2 授業

比較読みを通して、説明的文章を批判的に読む『「言葉」を持つ鳥、シジウカラ』

茅ヶ崎市立浜須賀中学校 太田亮平

指導事項と言語活動例

【知識及び技能】

・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深めること。

【思考力、判断力、表現力等】

・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にすること

〈言語活動例〉

論説の文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて文章にまとめる活動。

単元の全体構成

時	学習活動
---	------

1 ┌ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の確認クイズをする。 ・ 段落に分け、大切だと思うところに線を引きながら二つの文章を通読する。 ・ 文章の構成や展開について特徴を捉えながら、文章の要約をする。
4 ┌ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句テストをする。 ・ 二つの文章を比較し、両者の文章の工夫点や良いところを書き出しロイロノートで共有する。
5 ┌ 6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス全体で意見を共有し、説明的文章ではどのような工夫ができるかまとめる。 ・ 個人でまとめたものを班で共有する。 ・ 交流したことを踏まえて、再度自分の考えをまとめる。 ・ 単元の振り返りをする。

本時の活動

- ① 3～4人班でそれぞれの文章の良いところをロイロノートにまとめる
- ② 全体で共有する。
- ③ 個人でまとめる
- ④ 単元の振り返りをする。

研究の概要

1. 学びのプランの活用

単元の目標を事前に明示し、授業活動と評価基準を生徒に共有することで、学習プロセスを見通しやすくする仕組みが取り入れられている。これにより、生徒は授業の流れを把握し、主体的に学びに参加する姿勢を育成する。

2. 具体的な授業活動の工夫

授業では、生徒が自分の意見を表現するために、比較対象を用いた議論や文章構造の分析が行われる。生徒同士の対話や意見共有を促進することで、多角的な視点や深い思考を養うことを目指す。また、授業中に評価ポイントを明確に示し、成果物や記録を通じて、生徒自身が学びの進展を実感できるよう工夫している。

3. 実践例

比較対象となる文章や作品を用いて、それぞれの表現の違いや特徴を批判的に読む活動を行う。これにより、生徒は文章構成や論理性を意識し、自らの意見を改善・発展させる方法を学ぶ。また、生徒が学習内容を振り返り、記録を活用して次の活動に活かす仕組みが導入されている。

4. 授業改善の効果

これらの取り組みにより、生徒は学びの流れを理解し、授業に対する積極性が向上した。さらに、論理的に考える力や他者の意見を受け入れる姿勢が育まれただけでなく、授業で扱う題材の工夫によって、複雑な内容をわかりやすく整理する力も養われた。

指導のポイント

生徒の興味を引き出すための題材選びや、身近なテーマとの関連付けが授業設計で重要視されている。また、「わかる」「できる」を生徒が実感できる評価基準の設定が有効だ。さらに、生徒の個別の状況やペースに合わせた柔軟な指導計画が、学びの質を高める鍵となっている。授業後の振り返りや次への課題設定を明確化することで、学びの循環。

② 考察

授業の様子で印象深かった点は、教師は活動を指示するのみで、ほとんど生徒自身で進められていることだ。教師は授業のファシリテーターであり、生徒が主役の授業であった。そのような授業を実現するために必要なのは、生徒が主語の「学びのプラン」である。「学びのプラン」を活用することで、生徒一人ひとりが学習目標を明確に持ち、自己の進歩や課題を振り返る機会が提供されている。このような取り組みは、単に学習内容を覚えるだけでなく、深い理解と実践を促進す

る点で非常に意義深い。

さらに、授業内で比較読みを取り入れることで、文章の構成や論理的な組み立てを批判的に捉える力が育成されている。このようなスキルは、現代社会における情報リテラシーの基盤を形成するものであり、生徒の将来的な学びにもつながると考えられる。

授業検討で印象深かった点は、神奈川県の研究部員を県内から募るユニットの取組である。ユニットのメンバー全員で授業を検討し、実践している。神奈川県ではユニットメンバーで授業をそれぞれの学校で実施し、検討を重ねている。どの先生も授業について説明でき、この公開授業も飛び込みで行われているため、オール神奈川で研究に取り組んでいると伝わってきた。

3 分科会

読むこと（文学）の分科会に参加した。

神奈川県
教科書の文学的な文書を通して 自分の〈読み〉を想像する生徒の育成 ～一人ひとりの豊かな文学体験に つなげる指導を目指して～
横須賀市立大津中学校 高木 雄大 横須賀市立鴨居中学校 榎原さおり

1. テーマ設定の理由

現代の子どもたちは深く考えながら学ぶ機会が少なくなりつつある。その中で文学作品を通じて「読むこと」の重要性を見直し、生徒一人ひとりの考えを広げ深める読解力を育むことを目的とする。また、読書を通じて自分の考えを主体的に表現し、創造する力を伸ばすことを目指す。

2. 研究の概要

横須賀市内の中学校で計画的に授業を進めることで、文学作品の指導を通じた学びの指導案を構築。

指導案の改善を1年ごとに行い、各学年で具

体的な指導方法を実践して成果を検証。

3. 指導の実際

「読むことを創造する楽しさ」を重視し、文学作品を教材として生徒が自らの考えを見つけ深める授業を計画・実施する。

生徒の興味関心に基づいた題材の選定や具体的なワークシートを活用している。

5. 研究の成果と今後の課題

成果：生徒が「読むこと」を楽しむ意欲が向上し、自らの学びを深める意識が育つ。

課題：指導内容や方法をさらに工夫し、読書を通じて社会や生活に役立てる学びを実現する方法を模索する必要がある。

今後の方向性

学校図書館の活用をさらに推進し、日常の読書習慣を根付かせる取り組みをする。

文学を通じて、日常生活や社会における自分の立ち位置を考える力を養うことを目指す。

全国・関東
課題解決方法の「発見」と「活用」で「学ぶ楽しさ」を作る。
埼玉県北本市立東中学校 小松沙希

1. テーマ設定の理由

課題解決方法の「発見」と「活用」で「学ぶ楽しさ」を作るという主題のもと、読解力を育成し、学習者が主体的に学ぶ姿勢を身につける授業が目指されている。

2. 研究の目的

- ・生徒が「楽しい」と感じられる授業を通じて、共感的読書や考える読書を実現する。
- ・自ら課題を発見し、解決方法を考え出す力を育成する。
- ・他者の意見を取り入れることで多角的な視点を獲得し、文章の批判的読解能力を高める。

3. 実践概要

対象学年・時期：中学3年生、9月上旬頃。

単元名：「故郷の再発見」（光村図書）。

学習目標：自分の生活や社会とのつながりを意識し、読書の意義と活用を理解する。

指導計画：7時間の授業を通じて、「批判的に読む力」を重点的に育成する。

4. 指導の実際

全文章読解：登場人物の行動や心情に焦点を当て、過去と現在の表現の違いを理解する。

批評メモ作成：批判的な視点で読書を進める際にメモを取り、読んだ内容を整理する。

共同作業：仲間同士で意見を交換し合い、多様な視点を確認する。

創作活動：批評を文章化する作業を通じて、自らの考えを言語化する。

②考察

生徒が自分で課題を発見し、解決するプロセスを重視しており、主体性を育む教育方針が感じられる。他者との意見交換や批評活動を通じて、多面的な読解力を伸ばす点が特徴的である。

「批判的に読む」というテーマは、現代の情報化社会において重要なスキルであり、テキスト内容の背景や作者の意図を読み解く力を養う実践として非常に効果的だと感じた。

自ら発見し、深く考えるプロセスを設計した指導計画（学びのプラン）は、生徒の思考力や表現力の向上に大きく寄与すると考えられる。

研究討議では、実践の中でうまくいかなかったことを明確にしてその原因を探る分析の仕方がとても参考になった。また、今回の研究の「良かったところ」や「課題」、「取り入れたいこと・自校の紹介」を表にして協議するシートがあり、

4 今後に向けて（R9 四国大会）

今回の研修で得られた知見を活かし、次のような取り組みができると考えた。

1. ユニット制を校内研修の実施：研修内容を共有し、具体的な授業改善案を話し合う場を設ける。他校との連携を深め、成功事例や改善案を共有する

2. 「学びのプラン」の導入：学びの過程を評価できる仕組みを整備し、生徒の成長を可視化する。